

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>		認識人間学Ⅰ Epistemological Human StudiesⅠ				担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 青山 拓央	
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)	哲学・思想(各論)			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	木2		配当学年	全回生	対象学生	全学向
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)									
【授業の概要・目的】									
世界の事物を認識するうえで、言語はきわめて大切な道具です。ある意味では、私たちは言語を通して初めて、世界を「見る」ことが可能になります。本講義では言語と認識との関係について、分析哲学・科学哲学のさまざまな知見を解説する予定です(いわゆる「言語論的転回」や「全体論の意義などについてもお話しします)。教科書は使用しませんが、参考書に挙げた拙著『分析哲学講義』の該当箇所をブラッシュアップした内容を解説するとともに、同書にも記されていない、ここ最近の研究成果も紹介するかたちにて、講義を進めていきたいと考えています。									
【到達目標】									
分析哲学・科学哲学の基礎的な知識を得るとともに、言語と認識との関係について、さまざまな観点から理解を深める。									
【授業計画と内容】									
下記の7つのテーマに沿って、言語と認識との関係を考えます(授業の進行具合に応じて、どのテーマに何週をあてるかを変更する場合があります)。									
1. ガイダンス・分析哲学とは何か(第1週～第2週) 2. 言語の「意味」の客観性(第3週～第4週) 3. 名前と述語の機能について(第5週～第6週) 4. 文脈原理と全体論(第7週～第8週) 5. 意味の使用説と自然科学(第9週～第10週) 6. 可能世界と形而上学(第11週～第12週) 7. 心の哲学を概観する(第13週～第14週)									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・観点】									
期末の筆記試験で成績を評価します。採点基準はやや厳しめです。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 青山拓央『分析哲学講義』(筑摩書房)									
----- 認識人間学Ⅰ(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----									

認識人間学Ⅰ(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前の予習はとくに必要ではありませんが、授業後の復習は十分に行なってください。

[その他（オフィスアワー等）]

教室収容人数に応じて、初回講義の際、受講者を制限することがあります。授業での積極的な質問・発言を期待します。

[主要授業科目（学部・学科名）]